

NEWS^{にゅす}あらかると

素晴らしい成績を称え 俱知安町スポーツ表彰

町教育委員会では、前年度に各種スポーツ競技において活躍した選手・団体に、俱知安町スポーツ表彰を授与しています。今年はスポーツ賞に4個人、1団体、スポーツ奨励賞に16個人、7団体が選ばれ、11月5日（土）に授与式が行われました。各受賞者は次のとおりです。（カッコ内は競技名、敬称略、成績略）

スポーツ賞

▼個人

○住吉 輝紗良（フリースタイルスキー）
○湊屋 幸菜（アルペンスキー）
○田原 一晃（銃剣道）
○下村 美那子（杖道）

▼団体

○俱知安クラブ（ソフトボール）

スポーツ奨励賞

▼個人

○高橋 泰二（銃剣道）
○木村 信雄（銃剣道）
○齋藤 純夫（銃剣道）
○杉山 新吾（剣道）
○土谷 香恋（陸上競技）
○川中 勇人（陸上競技）
○紺谷 琢磨（陸上競技）
○浦田 桜音（陸上競技）
○廣瀬 雄人（陸上競技）
○若杉 唯夏（陸上競技）
○新田 未佳（陸上競技）



自慢の味が並びました 農産物即売会

10月29日（土）役場庁舎前で、俱知安農業の担い手として認定を受けた農業者と農業法人で構成された俱知安町認定農業者協議会主催の農産物即売会が実施されました。

この即売会は、農業者自らが提供した野菜などを、直接お客さんの顔を見て販売することで、俱知安産の農産物の安全・安心についての理解をより深めてもらうことを目的に、毎年実施しており、この日は開催時間の前から、多くの町民が集まり、新鮮でおいしい農産物を買求めています。

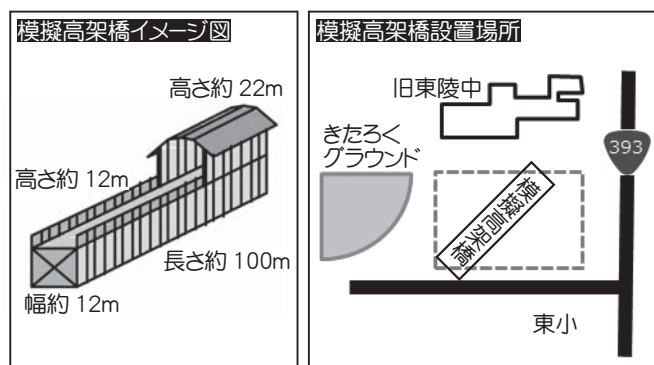
町では、基幹産業のひとつである農業の振興について、農産物のブランド化による足腰の強い農業の確立や、その基盤づくりとしての取り組みなどを進めていくこととしており、そのような中、この取り組みは、生産者が直接消費者に対し、その味や安全性といった魅力を伝える貴重な機会になっています。

なお、今回の売り上げの一部は、台風10号により被災した地域へ寄付されました。



北海道新幹線 雪の影響を調べます

俱知安町を走る新幹線が寒冷・豪雪地帯といったこれまでの地域にはない条件の中で安全に運行するためには雪の影響を調べ、対策を検討する必要があります。そこで模擬高架橋を作り、冬の状況確認試験を実施するのでお知らせします。



問 試験内容に関すること

鉄道・運輸機構 俱知安鉄道建設所
☎ 55-5915

問 模擬高架橋の工事に関すること

熊谷・大本・橋本川島・和工JV
☎ 21-2681

問 その他

町まちづくり新幹線課 ☎ 56-8012

人口の推移から見る町の課題・取り組み 平成27年国勢調査（確報値）公表

平成27年10月1日現在で実施した国勢調査の確報値が公表されました（平成28年10月26日）。

◆人口と世帯数の推移

	平成27年	増減
総人口	15,018人	-550人
男	7,538人	-254人
女	7,480人	-296人
世帯数	6,974世帯	-128世帯

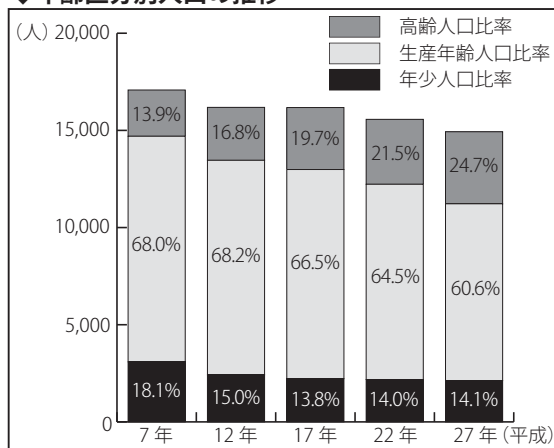
※前回調査（平成22年）との比較

前回（平成22年）の調査結果と比較すると総人口・世帯数ともに減少していることがわかります。年齢区分別に見ると、年少人口比率・生産年齢人口比率が減少傾向にある一方で高齢人口比率は増加傾向にあります。今回の調査では高齢人口比率が24・7%

となっており、町民の約4人に1人が65歳以上であることがわかります。少子高齢化が進む中、町は、お年寄りが住みやすい環境づくりと同時に年少人口減少抑制のために子育て支援を手厚くする必要がありますと考えています。

町では、お年寄りが快適に暮らせる住まいづくりや若年層の定住促進のための住環境整備を行っており、高齢者が所有する戸建て住宅を子育て世帯などへ引き継いでいけるよう住み替え支援補助制度を新たに創設しました。その他、65歳以上の方を対象としたバリアフリー住宅改修におけるリフォーム補助制度なども充実しています。

◆年齢区分別人口の推移



※高齢人口＝65歳以上、生産年齢人口＝15～64歳、年少人口＝0～14歳
※平成27年年齢不詳者0.6%

また、町民が安心して暮らしていくためには、安定した地域医療の確保が欠かせません。羊蹄山麓の地域医療において重要な役割を担っている俱知安厚生病院は、小樽市を除く後志管内において唯一出産ができる病院であることから、産婦人科常勤医師の確保における財政的支援を引き続き行っています。今年度は、子どもたちに、より安全で安心な給食を提供するために地産地消食育推進施設（学校給食センター）を建設しました。また、待機児童の解消を目指す統合保育所の建設や旭ヶ丘総合公園わんぱく広場大型遊具の入れ替えやなど子どもを育てやすい環境づくりのためのさまざまな取り組みを進めています。

ひらふスキー場第1・2・3町内会地区の皆さまへ



の収集方法が変わります

現在、ひらふ地区の家庭や事業所から排出されるごみは、サンスポーツランドに設置したごみステーションで回収し、町が直接ごみステーションの維持管理を行っていますが、この地区では、冬期間の人口増加に伴い分別されていないごみが多く排出されるため、収集業務に著しく支障が出ているという現状があります。このような状況を踏まえ、ひらふスキー場第1・2・3町内会地区では新たな排出・収集方法を試行します。なお、サンスポーツランドごみステーションの閉鎖は12月12日を予定しています。

〈家庭系ごみ〉

- ・居住のみの住民

事前登録による戸別収集

- ・共同住宅（アパート、ルームシェアなど）

事前登録によるごみステーション収集

※住宅所有者または管理者が設置・維持管理

〈事業系ごみ〉

- ・事業所が宿舍を設置または借り上げている場合
- ・事業所が宿泊施設を宿舍としている場合

事業所自ら搬入または許可業者に収集を依頼

※自社の事業活動の中で排出されたごみとする

ニセコひらふ安全センターが ひらふ第3駐車場へお引越し

ひらふ坂の下、セイコーマートニセコひらふ店隣で冬期間のみ開設しているニセコひらふ安全センターが、今冬からひらふ第3駐車場内に場所を変えて運営することになりました。同センターは、12月15日から3月頃まで警察官が常駐し、観光客が大幅に増える冬のひらふ地区の安全を守ります。

